

氏名	呉 茜 玲
学位の専攻分野の名称	博士（経済学）
学位記番号	甲経第52号（文部科学省への報告番号甲第485号）
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位授与年月日	2013年7月24日
学位論文題目	中国内陸地域の労働市場に関する数量分析 －四川省の場合－
論文審査委員	（主査） 教授 伊 藤 正 一 （副査） 教授 土 井 教 之 教授 井 口 泰 嚴 善 平（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

論文内容の要旨

本論文の目的は、大きく発展してきた中国経済の労働市場に焦点を当て、特に、中国内陸地域最大の労働力送り出し地域である四川省に焦点を当て、独自の個票データを収集し、中国の労働市場の重要な課題である農村労働力、特に農村女性の就業・職業選択に関する分析を行い、四川大地震による同地域農村労働者の就業の変化を分析し、他の重要課題である中国大卒者、特に内陸地域としての四川省大卒者の就業問題について分析し、中国内陸地域の労働市場の供給面を分析し実態の解明を行うことである。いずれも中国の労働市場の供給面に関する重要な課題であり、これまであまり研究対象としてとりあげられなかった分野である。以上の研究目的を達成するために、本論文は、以下の序章、終章と6つの章から構成されている。

序章 研究の課題と方法

第一章 中国の地域経済と四川省の労働市場

第二章 労働移動と就業に関する研究の展望

第三章 中国農村女性の就業決定要因に関する分析－四川省の場合

第四章 中国農村女性による職業選択の決定要因に関する一考察－四川省の場合

第五章 四川省農村労働力の就業問題と沿海地域の「民工荒」問題に関する研究－2009年四川大地震以後農村労働力の就業問題の実証分析

第六章 中国大学新卒の第一次就職と就職先選択の決定要因に関する分析－四川省の場合

終章 要約と政策的含意

序章では、先ず本論文の研究の背景について、中国経済の変化とそれに伴う労働力市場の変化とそれが直面する課題を指摘している。それらの課題の一つとしての農民労働力の不利な側面について説明すると同時に、どのように中国国内を移動しているかを紹介している。次に、本論文の問題意識として、中国内陸地域としての四川省について説明し、不利な状況に直面している同省の農村労働者、特に農村女性労働者の実態について問題点を指摘し、2008年に四川省で発生した大地震の農村労働力への影響と大卒者の就業問題について紹介している。そして、本論文の分析の枠組み、課題、アプローチの概略を示し、序章、第一章から第六章までの各章が本論文全体において果たしている意味を示している。

第一章では、労働移動を含む中国の労働市場と四川省の労働市場の概観を説明するために、以下の5点を示している。第1に、中国における都市・農村格差、地域間格差、都市内部と農村内部の所得格差の深刻さ、第2に、地域経済発展の要因としての人材・労働力の重要性、そして、第3に、過去20年余りの間の産業構造の変化、地域経済政策の変化などに伴う就業構造の変化と労働市場における需給不均衡を明らかにしている。第4に、中国沿海地域の労働市場における技能水準別需給不均衡と若年労働者不足の問題、第5に、四川省労働市場の変化を示した。

第二章では、本論文の研究分野である労働供給、就業行動、そして労働移動に関連する理論及び実証研究に関するこれまでの研究の展望を行っている。中国の不均衡な地域経済発展を背景として、農村労働力は都市部あるいはより高い所得が得られる地域に移動し、インフォーマル部門で就業するパターンが多い。本章では、主に経済学を基礎とした移動理論を中心に、中国の労働力送り出し地域の農村労働者と四川省の大卒者の就業問題に関連する就業と職業、移動と就職先選択の決定要因に関する様々な研究を展望している。

第三章では、四川省成都市の農村女性を調査対象としたアンケート調査で得られたデータを用いて、四川省の農村女性の就業意識と就業行動を考察している。まず、調査結果から、四川省の農村女性の多くは、技能・資格を持たず、教育水準も相対的に低く、結果として農村部の第二次産業、第三次産業あるいは都市部のインフォーマル部門に従事する割合が相対的に高いことを示した。次に、四川省の農村女性は、彼らが置かれている経済環境や教育などの個人属性の影響で、非農業に従事する機会は多くなく、彼らが従事できる職業の種類やその可能性は高くなく、賃金も低いことを明らかにした。実証分析の結果として、四川省の農村女性、特に成都市郊外周辺の女性の多くは地元であるいは四川省内での就業を希望することを明らかにし、農村女性が「家計の効用最大化」に基づく就業行動をし、就業の決定要因は多様であり、人的資本、家庭状況、そして家計所得が四川省農村女性の就業形態の選択にそれぞれ異なる影響を与えることを明らかにした。

第四章では、四川省農村女性の職業（雇用労働と自営業労働）選択の決定要因を分析している。アンケート調査によって得られた個票を用いた実証研究の結果、自営業労働の決定要因として、女性の個人的属性である年齢、学歴、配偶者の出稼ぎの有無、家計所得が統計的に有意に影響することを明らかにした。まず、女性の場合、年齢が高くなるにしたがって、非農業雇用への就業が難しくなることを明らかにした。夫が出稼ぎしている場合、既婚女性は夫に伴って移動し、非農業労働に従事するパターンが多く、既婚女性は雇用労働に就業する可能性が高くなり、家計所得が増加すると、世帯として起業や事業継続の資金をより多く持つために、女性は自営業労働を選択する可能性が高いことを明らかにした。

第五章では、被災地におけるアンケート調査によって得られた個票を用いて、2008年に起こった四川大地震後の四川省農村労働力への影響を分析している。四川省における震災からの復興事業などの影響もあり、四川省農村労働者の沿海地域からの帰省現象が起こってきた。同時に、2009年の世界経済危機の中で、中国沿海地域においては、「民工荒」問題が深刻化している。実証研究の結果は、震災後の四川省内での就業決定要因について、学歴（中卒と比較して高卒、技術学校、専門学校卒）は四川省内での就業に負の影響を与え、世帯あたり労働力数は正の影響を与え、外出就業がない場合は負の影響を与え、世帯当たり月收入は正の影響を与えることなどを明らかにした。最後の結果は、四川大震災後、四川省内の農村労働者の収入は高くなり、以前は省外での就業を選択したが、省内で就業することを選択し、家族と共に生活し、実家の震災からの回復や地域の経済発展にも貢献できるようになっている。この結果は、四川省内における農村労働者の所得の増加が中国沿海地域の「民工荒」問題の一要因となっていることを示唆している。

第六章では、四川省の大学生を対象としたアンケート調査によって得られた個票を用いて、四川省の大卒者の就職活動に関する決定要因を分析している。実証研究の結果は、第一次就職率（内定率）に対して大卒者の出身大学のランクが統計的に有意に影響し、上位校よりもむしろ短期大学のような下位校などの専門知識や技能に強い大学の方が有利であることを明らかにしている。また、女子学生よりも男子学生の第一次就

職率のほうが高く、逆に女子学生の進路選択として大学院に進学する可能性が高いことを明らかにした。さらに、大卒者の大学・学院の委員とクラス委員の経験は、第一次就職率に正の影響を与えることを明らかにしている。最後に、四川省大卒者は、就職先として西南地域（中国西南部大中市）での就職を希望する学生が他地域を希望する学生よりもその割合が高いことを示した。

終章では、第一章から第六章までの主な考察内容、分析結果、研究の特徴を示し、それらの考察結果を踏まえて、1) 都市・農村一体化の就業統計制度の構築と改善、2) 都市・農村の就業管理制度の構築・完備、3) 都市・農村の統一的社会保障制度、4) 都市・農村公共サービス・システムの構築に関する政策を提案している。

論文審査結果の要旨

呉茜玲氏の論文は、中国の労働市場が直面している重要な課題としての農村労働者、特に農村女性労働者の就業と職業選択、四川大地震の労働市場への影響、中国内陸地域における大卒者の就職問題というこれまであまり扱われなかった中国労働市場の供給側の課題に焦点を当てた研究テーマについて、考察している。これらの研究課題は、今後の中国の地域経済政策及び労働政策のあり方を考えるうえで大きな示唆を与えると考えられる。

本論文の主に評価されるべき点として、以下の5点が挙げられる。

- ① 中国の労働市場に関する研究は、主に沿海大都市の労働市場に関するものが多い。沿海地域の労働市場では、内陸地域からの農民労働者が多く働いている。中国の内陸地域の労働力送り出し地域として最重要の四川省農村労働者に関する研究はあまり多くない。本論文では、成都市周辺の農村地域に限定されるものの、内陸部農村女性労働者の就業と職業選択を分析した点で、先駆的な業績と考えられる。
- ② 中国の労働市場を分析する場合、マクロデータによって分析できることもあるが、個々の労働者の就業行動などの実証分析には個票データが有用である。中国で個票データの入手は非常に困難である。呉茜玲氏は、四川省震災地の政府部門、四川省社会科学院、そして四川大学などの協力を得、自ら四川省農村地域と四川省内の各大学で計3回のアンケート調査を実施した。個票データにつきもののサンプル・バイアスの問題はありますが、呉茜玲氏が、個票データを作成するために、関係者の協力を得つつ、大変な労力を投入したことに対しては、十分に敬意を表する。
- ③ 四川大地震以後の四川省の労働市場の変化について分析している。四川省西部山岳地域は、少数民族が多く住む地域であり、言葉が異なるなど通常のアンケート調査以上に調査は困難である。そのような地域でアンケートを実施し、現地でのインタビューを行い入手した貴重なアンケート調査結果に基づいて、大地震以降の復興事業にともなう雇用機会の増大が労働者の就業先の選択に影響を与えていることを明らかにした事実発見は重要である。
- ④ 中国内陸地域の四川省の大学生を対象としたアンケート調査によって得られた個票データを用いて、内陸地域の大学生の就業問題に関する分析を行っている。実証分析の結果から、大学のランクによって第一次就職率（内定率）が異なり、必ずしも上位校の第一次就職率が高いのではなく、より実践的な学びをする大学のほうがより高いことを明らかにし、個々の学生の属性である、専攻、成績状況、大学・学院の委員の経験などが第一次就職率に統計的に有意に影響することを明らかにした。これは、中国においては、大学の銘柄や縁故が、学卒者の就職に大きな影響を与えているという通念と異なる結果であり、その意味で重要な発見である。
- ⑤ 第一章から第六章までの主な考察内容、分析結果などを用いて、都市・農村に関する四つのテーマに関わる様々な政策提案を行い、単に内陸地域に位置する四川省労働市場の実証分析に終わることなく、政

策提案にまで結び付けている。つまり、理論、実証及び政策を関連付ける努力をしたことも、本論文の重要な特徴である。

他方、本論文はいくつかの問題点も含む。改善すべき点は次のとおりである。

- ① 本論文では、中国内陸部の労働市場の供給側に焦点を当てた分析を行っているが、労働市場の不均衡を考察する場合、需要側の分析も重要となる。しかしながら、本論文では労働市場の需給ミスマッチに関する理論的な整理が十分とは言えず、労働市場の需要側の分析は含まれず、経済発展の段階の違いによる労働市場の変化に関しての分析は行われていない。したがって、今後労働市場の分析のために、需要側の分析を行う必要があるとともに、時系列分析を行うことによって、大きく変化する中国の労働市場をよりの確に分析することができる。このことも呉茜玲氏の今後の研究課題である。
- ② 調査対象の地域は、四川省の省都である成都市及びその周辺が主であり、四川省全体を対象としているわけではない。また、中国内陸地域全体を考えると、本論文が対象としている地域は限定されている。このことを考えると、今後様々な中国内陸地域の調査による研究、また中国沿海地域との比較研究なども今後の研究課題である。
- ③ 本論文で、様々な仮説の検証を行っているが、理論的な整理が正確でない点がある。特に、G. ベッカーに由来する家計生産の理論、M. トダロの労働移動の理論を含む労働経済学や開発経済学の理論的フレームについて、その理論の前提、メカニズム及び帰結が、どこまで中国の現状を説明できるのかについては、必ずしも説明が十分でなく、議論の余地がある。
- ④ 労働市場の供給側を分析する場合、労働者の流動性問題の観点から、労働者の職場での満足度も重要である。そのために、労働者の満足度の調査分析が重要であり、その調査分析によって、労働者の就業選択の分析をより深めることができよう。
- ⑤ 本論文は、全体としての考察、分析にもとづき、政策提案を行っている。全体としての政策提案は妥当と考えられる。しかしながら、政策提案の中には、本論文では行っていない需要側からの政策提案が含まれている。また、呉茜玲氏が提案する「労働法」とは、現在、中国で施行されている「労働契約法」をどのように発展させたものなのかが書かれていない。さらに、呉茜玲氏が、農村と都市を含め、どのような労働市場の需給システムを構想して、どのような改革をしようとするのかが判りにくい。政策提案をより現実的なものとするためには、今後、日中の労働市場の比較分析を行うことが極めて有益であり、今後の研究課題とすべきである。

このように今後改善すべき残された問題もあるが、本論文を総合的に判断すれば、中国内陸地域で最も重要な四川省の労働市場について、四川省農村女性の就業と職業選択の決定要因を明らかにし、四川大地震後の農村労働力の就業選択についてその決定要因を明らかにし、「民工荒」問題の要因の一つを示唆し、四川省大卒者の就業選択について分析し、様々な独自の発見をしているなど多くの優れた研究成果を上げており、学界に貢献するところ大である、と評価できる。

以上の審査結果にもとづき、当審査委員会は博士学位申請論文の提出者呉茜玲氏が博士（経済学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定する。